

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちとせ児童発達支援センターはる			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○訪問先施設評価実施期間	令和8年2月1日		～	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	9	(回答数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日			

○ 分析結果

事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
・専門性の高い支援が提供できており、保護者・訪問先施設ともに「具体的に実践しやすい助言」「専門的な視点が学びになる」と高く評価されている。 ・子どもが安心して過ごせる環境づくりができており、保護者からの満足度が高い。 ・個別支援計画の説明や面談など、保護者とのコミュニケーションが丁寧で信頼関係が構築されている。 ・記録・情報共有・安全管理など、基盤となる運営体制が安定している。 ・困りごとの解消につながる支援ができており、訪問先施設からも「課題が軽減した」との声がある。	・毎月の通信発行による継続的な情報発信。 ・訪問支援では、現場で実践しやすい助言を意識し、必要に応じて電話相談など柔軟に対応。 ・個別支援計画の説明を丁寧に行い、保護者の意向を聞き取る姿勢を大切にしている。 ・職員間での記録共有や支援内容の統一を図り、支援の一貫性を保っている。 ・子どもの特性に合わせた関わり方や教材の工夫を継続している。	・訪問先施設との連携を強化するため、「緊急時対応シート」や「支援内容確認シート」を作成し、事前共有を仕組み化する。 ・HPリニューアル後は更新担当者を明確にし、情報発信の頻度と内容を安定させる。 ・契約時の説明資料を図解、写真入りでわかりやすく再構成し、契約後のフォロー説明も取り入れる。 ・SNSやデジタル通信など、複数の媒体を活用した情報発信を検討する。 ・訪問支援の役割分担や支援範囲を文書化し、訪問先との齟齬を防ぐ。

事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
・緊急時対応について、訪問先施設との連携が十分に仕組み化されていない。 ・HP更新が滞っており、情報発信の手段が限定的になっている。 ・契約時の説明は実施しているが、伝わり方にばらつきがあり、資料のわかりやすさに課題がある。 ・一部の業務が属人的になっており、標準化が不十分な部分がある。 ・訪問支援における「どこまで行うか」の境界が曖昧で、訪問先からも確認の声があった。	・訪問先ごとにルールが異なり、緊急時対応や支援範囲の事前共有が体系化されていない。 ・HPが旧仕様で更新しづらく、担当者も明確でないため、情報発信が滞りやすい。 ・契約時資料が情報量過多で視覚的な工夫が不足しており、説明が一度きりになりがち。 ・マニュアルや共有フォーマットが不十分で、担当者の力量に依存する業務が残っている。 ・相談体制や連絡ルートが明文化されておらず、「伝わっているはず」という前提が生まれやすい。	・緊急時対応・支援範囲・役割分担を文書化し、訪問前の事前共有を徹底する仕組みを整える。 ・HPリニューアル後の運用体制（担当者・更新頻度・発信内容）を明確にし、情報発信の質と量を安定させる。 ・契約時説明資料を刷新し、要点をまとめた1枚資料や振り返り説明の機会を設ける。 ・業務の標準化を進め、マニュアル整備や共有ルールの統一を図る。 ・相談体制を明文化し、保護者・訪問先が相談しやすい環境を整える。